

業務実績報告書

提出日 2020年 1月 23日

1. 職名・氏名 教授 新宮 晋

2. 学位 学位 修士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年月 1986年3月

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 マクロ経済学Ⅰ（2単位） 1年生 （2017年度以前～2019年度）	
② 内容・ねらい ミクロ経済学とともに経済学の基礎理論の一つとして、その後の経済学学習のベースになる理論の概念や論理を理解させることをねらいとしている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学習時間が成果に結びつくことを学生に実感させたい。そのため、経済学的な考え方を易しいモデルで説明するとともに、テキストを指定しそれに沿うことで学習の便宜を図る。また、練習問題を予習課題として講義の準備を促すとともに、ゴールイメージを明確にするとともに、理解の助けになるよう、事後に練習問題の解答会を行った。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 マクロ経済学Ⅱ（2単位） 1年生 （2017年度以前～2019年度）	
② 内容・ねらい マクロ経済学Ⅰから引き続き経済学の基礎理論を丁寧に講義。IS/LM分析、AD/AS分析など、マクロ的分析の全体像を明確に提示することをねらいとしている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 かなり平易なテキストを参考書に指定し、練習問題での演習を使いながら、モデル分析への習熟を促すよう誘導。その際、時事の政策問題に言及しながらモデル分析の意味を理解させる。また、マクロ経済学Ⅰと同様練習問題を予習と位置づけることで講義の準備を促すとともに、ゴールイメージを明確にする。前期同様、今期も解答会を正規授業に組み込み、この科目で何を理解すべきと要求しているのかを明確にした。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 マクロ経済学Ⅲ（2単位） 2年生以上 （2017年度、2019年度）	
② 内容・ねらい マクロ経済学の基礎理論の延長にある様々な個別理論とともに、ケインズ派以外のマクロモデルや動学モデルにも言及。マクロ経済学の応用面への足がかりを提示することをねらいとしている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 マクロ経済学からの派生的トピックが散在している形で全体の関連性が薄いので、個別項目ごとに学習の進度に合わせた演習問題を提供することで、何に答えられれば理解したことになるのかが自分で把握できるようにしている。公務員志望者向けに、より一般的なテキストによる一般的な内容にも言及。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 政治経済学（2単位） 2年生以上 （2018年度）	
② 内容・ねらい マクロ経済学やミクロ経済学といった主流派の根底にある考え方を示すとともに、それらのカウンターパートになる経済学的思考の在り方を経済学史や社会哲学の知見を紹介しながら、経済学の経済及び社会についての考え方は一様ではないことを理解させることをねらいとしてい	

る。
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 経済学はあまたある社会現象の一つを解明するに過ぎないことを理解させるためできるだけ周辺領域に言及し、それらとの関連の中に経済学を位置づけるという目的を達するため、社会学や社会哲学、ヨーロッパ近代史についての基礎的な概容を紹介している。また政治哲学が提起する批判に経済学はどこまで応えうるのかについても、トピックとして採り上げた。</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 基礎ゼミ(2単位) 2年生 (2017年度以前～2019年度)</p>
<p>② 内容・ねらい 2016年度より社会学のテキストを用いて、経済学にとどまらない社会現象一般の問題を拾い出し、そこでの問題提起に対してどのように考えるか議論させたり根拠を示させたりした。その合間に、マクロやミクロの個々の理論の様々な論点について、質問への応答という形で授業を進めた。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 基本的なリテラシーの中でも読み取る力を涵養するため、特定のテキストを丁寧に読み込ませる。と同時に、2名一組のレジュメ担当者とはオフィスアワーを利用して内容の理解や授業の進め方について事前打ち合わせし、彼らにひとまず授業の進行を任せ、全員での議論を采配させる。総括的な評価や内容についての突っ込んだ理解について、毎回最後の自分がまとめた。</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 外書講読Ⅰ(2単位) 2年生 (2017年度以前～2018年度)</p>
<p>② 内容・ねらい ここ3年は主に政治哲学の英文を読む。標準的な経済学が前提にしている道徳的基盤に対する疑問が率直に提示されているものである。自分が担当する政治経済学の授業との連携を意識しつつ、経済学を支える道徳哲学についての理解を、英語文献を読むことで深めることを狙いとする。また、英文についての立ち入った説明はおもに読解技術に限り、理解と翻訳の結びつきが重要であることを気づかせることも重要なねらいである。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 通常外書講読では、英文翻訳と中身についての理解を並行して行うが、ここ3年は事前にテキストの内容に関わる論点の理解を、一定の時間をかけて日本語でおこなう。そのさい、内容に立ち入った議論になれることをめざし、討論の機会も設けている。また映像教材を積極的に活用した。これによって英文の理解はかなり容易になるようで、普段よりも短時間で大量の英文を読ませることができた。</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 演習Ⅰ(4単位) 3年生 (2017年度以前～2019年度)</p>
<p>② 内容・ねらい 理論についてのきちんとした理解の上に、特定のテーマに関して理論やビジョンに基づいた政策提言をシミュレーションとして行うために、研究させる。テーマは年間を通して一貫させる場合と、前期・後期で異なるものにする場合があるが、いずれにしても経済学や周辺領域についての知識を使いながら論理的説得的に思考できる訓練をすることをねらいとしている。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 理論ないし社会哲学の基本的な文献を丁寧に読む訓練をまず行う。その上で受講生が選んだテーマに基づいて発表させる。この3年間は、前期のうちにゼミ内プレゼンを行うことにし、後期の学内ゼミコンの予行演習をさせる。後期は、学内のゼミナール・コンテストでの研究発表を中心とし、グループ・マネージメントやプレゼンテーション技能の向上を図るようにした。テーマの選定から結果に至るまで力量以上の負荷を課すことで、理解が表現の前提であることを学ばせる。そのための装置としてコンテスト形式での研究発表は非常に有益であるということを毎回実感する。</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 演習Ⅱ(4単位) 4年生 (2017年度以前～2019年度)</p>

<p>② 内容・ねらい 前期は演習Ⅰでチームごとに行った研究発表の内容を、個人ベースで掘り下げさせる。また、就職活動と並行して授業が進むので、適宜時事問題についての情報交換を織り交ぜる。後期はやや高度な特定の文献や、敢えて初歩的なテキストを輪読し、これまでの知識でどれだけ読みこなせるか確認する。15年度からは卒業論文をゼミ受講の条件にし、受講生全員に書かせることにした。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 総花的ではなく、特定のテーマについてのインテンシブな学修になるよう誘導。卒論では、3年次の研究発表内容をそれぞれに掘り下げることを中心に研究するよう誘導することで、理解を深めるとともに執筆自体から満足が得られるよう導く。ただし、テーマはそれに縛ったわけではない。後期は特に、同じ文献について全員毎回レジュメを書かせ、同じ地平で議論ができるようにした。折に触れ、卒論の中間発表の機会を設けることもあった。</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 特別企画講座A「ケーススタディで学ぶ労働組合」(2単位) 2年生以上 2017年度以前～2019年度</p>
<p>② 内容・ねらい 連合による寄付講座。2013年の実績についての反省にもとづき全体を再構成。採り上げるテーマは、雇用劣化(失業・非正規雇用の拡大・低賃金・労働条件の悪化)の現状と課題、従業員の権利と義務の実際、そこで果たすべき労働組合の役割などで、制度面・法制面等多面的に展開した点は昨年と同様である。多様な講師陣によるオムニバス講義で、キャリア教育とは異なる実社会への誘いをねらいとしている。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 現場の具体的事例から説き起こす「ケーススタディ」として講義内容を構成し直してもらい、抽象論のレベルで重複することが多かったそれ以前の講義の反省を生かした。講師陣も地元の現場関係者を多くした。授業時間90分を、講義60分と質疑応答の30分に分け、毎回の講義についての疑問と感想を出席者に書かせ、これに授業内で応えるという形に変えた。基本的な構成はほぼルーティン化してきたが、パネル・ディスカッションだけは毎回テーマを変え、ゲストもそれに合わせて工夫している。</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 インターンシップ(2単位) 3年生 2017年度</p>
<p>② 内容・ねらい 事前研修や就業体験、海外研修等を通じ、社会人として必要とされる知識や能力を身につけさせることをねらいとする。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 事前研修に力を入れ就業体験前にほぼ就職ガイダンスに匹敵する内容を盛り込む。福井経営者協会との連携も積極的に行った。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 開講学校名 経済学(2単位)1年生以上 敦賀市立看護大学 (2018年度後期)</p>
<p>② 内容・ねらい 経済学の基礎(特にミクロ経済学)について学ばせるとともに、医療の経済学における位置づけや国民医療のマクロ的実態、それに看護労働の現状についての言及することで、看護の社会的経済的位置づけを理解させることをねらいとする。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 一般教育科目として講義全体を構成するとともに、看護学との関連性を意識した内容をトピックに多く使った。それ自体が経済学についての理解に結びつくよう工夫したつもりである。</p>
<p>④ 本学における業務との関連性 理系の素養がある分、数学的展開に対して抵抗が少なかったが、具体例から一般性を引き出すやり方が学生には理解しやすいことがよくわかった。本学での講義や演習にも生かせる。</p>

(3) その他の教育活動
SMAP世話人会運営 (2017年度以前～)
SMAPインターゼミナールコンテスト運営 (2017年度以前～)
福井経営者協会主催インターンシップ県内大学連絡会 (2017年)
連合福井就職直前講座コーディネート (2017年～2019年)

4. 研究業績

(1) 研究業績の公表
① 論文「池田町の経済を測る－経済計算における支出側から見た池田町の姿」 (『地域公共政策研究 第27号』 2018年10月)
② 著書
③ 学会報告等 「町民経済計算の意義」 『地域公共政策学会2017年度秋季研究大会』 報告「6次産業と支出の推計」 同上
④ その他の公表実績
(2) 学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など 地域公共政策学会理事
学会・分科会の開催運営 北陸地域政策研究フォーラム運営会議参加 (2020年度開催準備)
(3) 研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4) 外部資金・競争的資金獲得実績
(5) 特許出願

5. 地域・社会貢献

(1) 学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井地方最低賃金審議会会長 (2017～) 福井地方最低賃金審議会専門部会委員 (2017～) 福井特定最低賃金専門部会委員 (2017～) 福井市中央卸売市場開設運営協議会座長 (2017～)
② 国・地方公共団体等の調査受託等 池田町町民経済計算 (岡・廣瀬・井上各氏と共同) (～2017年度)
③ (公益性の強い) NPO・NGO法人への参加
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 COC+インターンシップWGメンバー
⑥ その他 『月刊連合』 No.360 取材 (インタビュー) 記事 (2018年度) 福井県労働基準協会講演「少子化時代の大学教育～経済系学部の展望を中心に～」 (2019年6月) 東洋紡(株)敦賀事業所協力事業所互助会研修会講演 (2019年12月)

(2) 大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 「高校生のための経済学入門2017」 (2017年後期) AOSSA 「高校生のための経済学入門2018」 (2018年後期) AOSSA 「高校生のための経済学入門2019」 (2019年後期) AOSSA
② 社会人・高校生向けの講座 開放講義 福井県立若狭高校 (2019年10月) 福井県立敦賀高校 (2019年10月)
③ その他 兵庫県立西宮東高校大学訪問対応 (2019年7月)
(3) その他 (個人の資格で参加している社会活動等)
福井エフエム「空飛ぶ文庫」出演 (2017年度)

6. 大学の管理・運営

(1) 役職 (副学長、部局長、学科長)
経済学科長 (2017年度、2018年度)、経済学部長兼経済・経営学研究科長 (2019年度)
(2) 委員会・チーム活動
経済学部カリキュラム検討WG (2017年度、2018年度) 経済学部学生支援チームメンバー (2018年度) 大学案内学部WG (2018年度) FD部会部会長 (2019年度)、教学IR部会部会長 (2019年度) 公立大学協会商・経・経営部会 (福山市立大学) (2019年度)
(3) 学内行事への参加
F・Leccs FD研修 (2019年9月)
(4) その他、自発的活動など
COC+インターシップ会議 (2018年6月25日@福井大学)